

弘大と第一三共ヘルスケア 頭痛、睡眠、口腔で講座

岩木健診データ解析

健康と美へ製品開発

弘前大学と第一三共ヘルスケア（本社東京都）は、セルフケア推進に向けた共同研究講座「健康ライフサイエンス研究講座」を開設し、16日に弘前大医学部で設置開式を行った。同社初の研究講座は3月1日付で開設。頭痛や睡眠、口腔について、同大が中心となって取り組む大規模な住民合同健診「岩木健康増進プロジェクト」の20年にも及ぶ健康ビッグデータの研究解析を進め、生活者に寄り添った製品開発、誰もがよき健康で美しくあり続けることができる社会の実現を目指す。

（稲葉智絵）



共同研究講座の看板を手にする福田学長（左から2人目）と内田代表取締役社長（同3人目）ら

同社は製薬企業として多様な医療ニーズに応える医薬品の開発、提供のみならず、機能性スキンケア、オーラルケア、食品と美容の幅を広げてきた。

今年度初めて参画した岩木健診では、健康管理機能を備えたスマートウォッチ「FitBit（フィットビット）」を使った睡眠データの測定、頭痛に関するアンケートを実施した。

共同研究講座では、同社が計測した結果とバイタルといった健診データを分析していく。同社担当者は「日本人の4人に1人が『頭痛』に悩まされおり、そのタイプは300種類以上に分類されているという。さらに、睡眠と口腔ケアは近年注目が高まってい

るテーマ」とした上で、「20年という期間に加え、約3000項目に及ぶデータは世界でも類を見ない。さまざまなデータの照らし合わせ、20年近く受診する方のデータ追跡で課題の発見、掘り下げにつながり、生活者に寄り添った製品開発、サービスが提供できる」と話した。

開式では福田真作学長が「目的の研究はもちろんのこと、岩木健診のビッグデータから新たな研究テーマを見つけたい」、同大大学院医学研究科の伊東健副研究科長が「世界で初めてアドレナリンの結晶化に成功するなど、日本のイノベーションをけん引し

てきた企業との共同研究で、岩木健診でも掲げているトータルヘルスケアの実現を目指すことができる」とそれぞれ期待を寄せた。

第一三共ヘルスケアの内田高広代表取締役社長は岩木健診の蓄積された多項目のビッグデータ、20社以上の企業が参画するネットワークを高く評価。「大学や業種の異なる企業、さまざまな分野の専門性を持つ研究者が一堂に会し、協力して新たな知識や発見を見いだすことで、頭痛、睡眠、口腔の課題解決に向けた最

先端開発を進めていく。さらに、企業ネットワークを強め、新たなプロジェクトの創出を目指したい」と意欲を示した。